

「学校部活動地域移行に関するシンポジウム in ぐんま」開催

2023年12月3日(日)・4日(月)、伊香保 塚越屋七兵衛を会場にして標記のシンポジウムを開催しました。

このシンポジウムは、全国的な動きとなっている学校部活動の地域移行と今後の地域スポーツ環境の在り方について、総合型地域スポーツクラブ育成プランを取り纏めた方々で様々な立場で全国的に活躍しているシンポジストを囲んで共に学び、意見交換することを目的としました。

全国から60名の様々な立場の皆さんが集いました。

【1日目】

「スポーツ庁担当官から基調講演」、「シンポジウム1 行政担当者・学校関係者向け学校」、「シンポジウム2 地域スポーツ関係者向け」、「名刺交換タイム」

【2日目】

「シンポジウム3 シン 地域スポーツ環境とは」、「シンポジストを囲んで座談会」

【シンポジスト全員が地域スポーツクラブ活動の第一人者】

今回のシンポジウムのシンポジストは、総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013を取りまとめた通称「チーム2013」と言われるメンバーです。全国の総合型地域スポーツクラブ関係者から常に助言を求められているスペシャリストでした。

シンポジウムの実施方法は、事前打ち合わせ無しでコーディネーターがシンポジストへ質問してシンポジストが回答する方法。本音トークでスポーツの本質等を真剣に議論しました。



(左 中阪氏、山本氏、松田氏、竹河氏)



(中 1日目の参加者)



(左から小出氏、中西氏、中阪氏、南木氏)



(2日目 解散前 塚越屋七兵衛威玄関前にて集合写真)



(シンポジストと座談会で自由に意見交換)

※ シンポジウムの報告書を作成して配布するので詳細は報告書をご覧ください。

・スポーツ庁の基調講演で印象に残った言葉

- 1.部活動とは?その原点を考えてみる。
- 2.自主的、主体的に行う活動になっているのか?
- 3.全中が始まった年⇒1979年 大会中心の部活動になっていないか。
- 4.現在の親世代は、全中があり部活動が盛んな時期を過ごしてきている。
- 5.国全体が少子化の中で、青少年が好きなスポーツ・文化芸術活動ができる環境づくりが必要になっている。

I. シンポジウム 1：行政・学校関係者向け コーディネーター 中西教授(立命館大学)

【印象に残った言葉】**学校部活動の地域移行の本質が伝わっていない**

1. 北海道内各地を巡回して感じることは、「部活動の地域移行」に関する考え方で違和感がある。群馬県内35市町村を巡回していた時に感じた違和感と同じことを北海道でも感じた。
2. 町長と言う立場から直接携わってはいないが、スタート時点で現場が混乱している。
受け皿探しに終始していることが問題である。
3. 地域間で課題が違う。地域で違うパターンを検討する必要がある。
今、大人が試されていることは自分たちの地域にあったやり方や工夫を子どもたちの意見を聞きながら実施できるのかである。

II. シンポジウム 2：地域スポーツ関係者向け コーディネーター 山本教授(北海道教育大学)

1. **日本人の「クラブ観」を大きく変える必要がある。**

そもそも欧米のスポーツクラブには「総合型」という冠はつかない。日本は、「単一種目」型の地域クラブが大多数であるため、それと峻別する意図から「総合型」の冠を付けるとともに、単なるスポーツ愛好集団から地域づくりをめざすスポーツ組織へと変わるための冠付けでもある。日本人は、クラブとチームの用語の定義や使い方が曖昧（ゴチャゴチャ）になっている現状から、クラブ概念を正確に理解しないと、また総合型クラブの育成時と同じ失敗をすと思う。

III. シンポジウム 3：シン 地域スポーツ環境とは コーディネーター 中西教授(立命館大学)

1. **地域の中に学校がある環境づくりが大切。学校と地域の二者択一論にならないようにする。**

学校内だけで学ぶのではなく、地域で学ぶように変わらと思う

すべての人達がスポーツを楽しめる環境づくりが大切

多世代が活動して活躍する環境が大切

2. 「多様性の包摂する」社会を創るためには、行政はもっと勉強して欲しい。

家庭、学校、企業以外の場で学べる場所（サードプレイス）を作りたい。誰かが作った場所だけでなく、自分たちで作り出す心意気が大切である。

3. **自分事として考えて地域活性化のために行動することが大切**